



だいかん

大寒（20日）… 厳しい寒さに氷や霜柱が見られる日も …

わくわく池は、子どもたちにとっては無くてはならない自然との触れ合いスポットです。毎年この季節には、何度か池に氷が張ります。いろいろな状況が重なると凍りますが、今年はまさにこの大寒の日に全面結氷し、子どもたちは大興奮でした。

<水沢腹堅 さわみず こおりつめる 1月25日～29日>

大寒の次候は「水沢腹堅」です。大寒の中でも、沢の水が堅く凍りつくほどの一番寒い季節です。

<みんなの自然体験スポット>

わくわく池は、このコラムやブログで何度も紹介しているビオトープです。私は担任時代、子どもたちが自然や生き物と豊かな関わりをもてるよう、にじのはし幼稚園では、子どもたちと「にじっこ池」を作りました。区教研の環境や自然に関する部会で、池を作ったり、みかんなどの柑橘系の植物を植えたりする環境づくりの実践と研究をし、他園の先生たちにも勧めていました。その後、各園でビオトープ作りが進んだのですが、その一つがこのわくわく池なのです。

<生き物はもちろん、わくわく池が大好き>

春から夏にかけては、カエルやオタマジャクシ、ヤゴ、トンボなどの生き物たちが子どもたちの興味の対象でした。冬になり、生き物の姿が見えなくなり、草も枯れてきましたが、12月には乾燥で干上がった池を心配して年長児たちが「水を運ぶプロジェクト」を敢行したことはお伝えしました。

<真冬ならではの自然現象との貴重な出会い>

大寒の日、この冬2度目の氷が張りました。前はうっすらでしたが、今回は全面結氷でした。身支度が終わると、子どもたちが次々と池にやって来ました。情報がサッと伝わるのは子どもたちのつながりが深まっている証です。年長が出てくる頃にはだいぶ減っていたのですが、年長児は長いシャベルを使って奥の方の氷を取っていました。さすがです！

「冷た～い！」と言いながら、手のひらに乗せてみたり、太陽に透かしてキラキラした様子に驚いたり、かき氷みたいと遊びに使ったりと、氷と直接触れ合う体験を仲間と共有できました。その感動が源となつてか、自分でも氷を作ろうとする実験があちこちで始まりました。さて、その結果は？



まさに大寒の20日に全面結氷！



凍っているかな？とやって来た年中児



続いてやって来たのは年少児



年長児も遅れてやって来て…



この日の氷は、1cm近いかなり厚めの氷でした



ほら見て！こんなに大きい氷が取れたよ。わあ、すごい！！



奥の氷を使い慣れた長シャベルで！